

Title	昭和七年度三田史學研究會例會報告
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1933
Jtitle	史学 Vol.12, No.2 (1933. 5) ,p.204(376)- 205(377)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	彙報
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19330500-0204

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

トルコは前述の如く、世界大戰後ローザンヌ條約を締結するまで依然として不平等條約の儘に放置せられてゐた。アブドル・ハミッド二世が一八九〇年(明治二十三年)日本に使節を派遣する以前から、頻りに日土間の國交を親密にせんと欲して、その外交當局をして、兩國の間に條約を締結せしめんと盡瘁したのは、その動機が日本と對等條約を結び、結局兩國共同の力を以て、兩國に課せられた歐米に對する不平等條約を改締せしめんとするに在つたことは、著者が種々の史料によりて證明してゐる所である。又著者はアブドル・ハミッド二世がオスマン・パシヤを東洋に派遣した目的を擧げて、一、汎回教主義宣傳の爲、二、日土條約締結促進の爲、三、小松宮同妃兩殿下土京御訪問の御答禮、四、練習艦の遠洋航海に在りとして、種々の文獻によりて、これを證明してゐる。殊にトルコ使節の航海旅程並にその一行の紀州沖遭難の實況の敘述は精細を悉してゐる。而して著者は從來等閑に附せられたトルコ使節派遣の内情、汎回教主義運動の實情を明かにする爲、これ等に關する各方面の史料を列擧して、這般の消息を説明してゐる。殊に日土交渉停頓の真相も本邦とヨーロッパの文獻に徴して明白にせられてゐる。要するに、以上の研究結論にはなほ異論を容るべき餘地なきに非るべしと雖も著者が親しく西南亞細亞地方を踏査し、又多年土京に滯留して刻苦勉勵各種の史料を蒐集し、克く研鑽を重ね、前人未發の諸點を開拓したることは、史學上有益なる研究と認めらるべきものと信ずる。仍て本學部は本書の著者を以て文學博士の學位を授與するに足るべきものと認むる。

昭和七年度三田史學研究會 例會報告

昭和七年度三田史學研究會に於ける講演者及びその演題を列擧せば左の如し。

昭和七年

五月五日(木)午後三時 於萬來會洋間(第二百十五回例會) 恒松

安夫氏歸朝歡迎會並に新入生歡迎會

管子の製作年代に就いて 佐々倉精五君

足利時代の土一揆に就いて 菅原 精一君

滯歐雜感 恒松 安夫氏

六月二日(木)午後三時 於萬來會洋間(第二百十六回例會)

De Bello Gallico の製作年代に就いて 近山 金次氏

臺灣に於ける和蘭人の經營 幸田 成友氏

六月二十三日(木)午後三時 於萬來會洋間(第二百十七回例會)

應仁以後の日明貿易 横田 實君

二月革命の經過 藤田 寅一君

修史雜談 竹越與三郎氏

九月二十二日(木)午後三時 於萬來會洋間(第二百十八回例會)

紀元前四、五世紀アツチカに於る奴隸勞働 穴原榮三郎君

人種問題 松本 芳夫氏

十月六日(木)午後三時 於萬來會洋間(第二百十九回例會)

紫外線に依る古文書の鑑定 高山 定雄君

聖シャギエルの遺骸に就いて 吉田小五郎氏
聖シャギエルの遺骸に就いて 幸田 成友氏

十月二十日(木)午後三時 於萬來舍洋間(第二十二回例会)

Marco Polo の往路の行程について 佐藤 龍兒君

京極爲兼を中心として見たる持明院

大覺寺兩皇統の對立 犬塚 久雄氏

十月二十日(木)午後六時 於萬來舍洋間(特別講演會)

奈良古美術案内 丸尾彰三郎氏

十一月十六日(水)午後二時半於萬來舍洋間(第二十二回例会)

幕末に於ける輿論政治思想の發展に就いて 寺田 進君

浮世繪殊に東錦畫に就いて 高橋誠一郎氏

十一月二十六日(土)午後二時半 於萬來舍洋間(第二十二回例会)

例會) 淺子勝二郎氏

竹取物語に對する一考察 石河 幹明氏

福澤諭吉傳に就いて 山下 昌孝君

昭和八年 一月十八日(水)午後三時 於萬來舍洋間(第二十三回例会)

史學史に對する一考察 和田 清氏

秦漢十二郷攷 秦漢十二郷攷

二月十八日(土)午後一時 於萬來舍洋間(第二十四回例会)

卒業論文披露會(第一回)

平安時代の國內交通 堀居 寛君

足利時代の土一揆について 菅原 精一君

國分寺成立論——國分寺研究序説 森 貞成君

神祇政治史研究 鈴木 四郎君
フランス革命初期に於ける共和主義

運動の發展 平山 榮一君

アイルランド問題 山田 秀男君

二月二十五日(土)午後一時半於萬來舍洋間(第二十五回例会)

卒業論文披露(第二回)卒業生送別會

識緯說研究 杉本 忠君

高麗と遼との關係に就いて 本多 正一君

遠遊考 中丸平一郎君

管子研究 佐々倉精五君

四月二十八日(金)午後三時 於萬來舍洋間(第二十六回例会)

王逸の楚辭章句に就いて 樋口吉之助君

回教時代のスペイン 間崎 万里氏

五月十一日(木)午後三時 於萬來舍洋間(第二十七回例会)

ツート・アング・アメンの生涯 片本 恒雄君

コンスタンチノール風俗史 内藤 智秀氏